

# 令和3年度「米原市学力状況調査」の結果について

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

米原市では、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、平成17年度から学力状況調査を実施している。

この調査は、学習内容の理解度を測る「教科学力」とともに、その背景となる「学習意識」も客観的に調査し、米原市の児童の学ぶ力の実態を多面的に把握するものである。

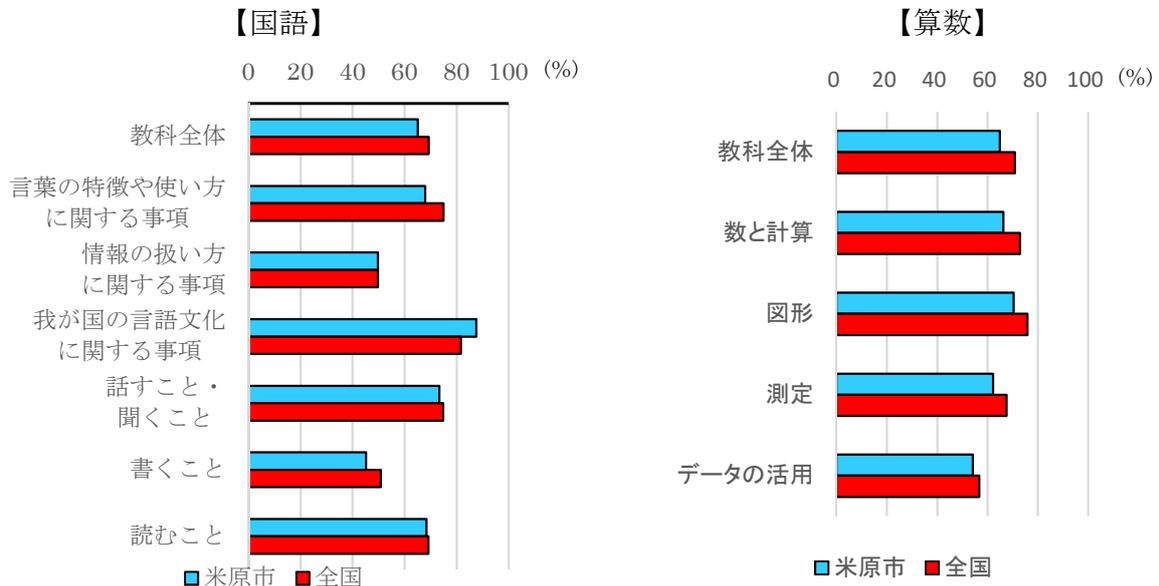
そして、その結果を分析し、各学校の実態に応じた授業改善へとつなげていく。さらに、学校が児童生徒一人ひとりの学習定着状況を把握し、的確な個別指導を行うための一助とする。

### (2) 調査の対象および内容

- ・調査対象 … 小学校第4学年（市内9校）323人
- ・調査内容 … 標準学力調査 国語・算数の2教科（各40分）  
質問紙調査 「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習習慣」「米原市独自の質問」（45分程度）
- ・調査期日 … 令和3年6月14日（月）～6月18日（木）のうち各校が定めた日

## 2 標準学力調査の結果

### (1) 標準学力調査の平均正答率



・4年生国語を見ると、全国平均をやや下回っている。問題の内容は、「言葉の学習」に課題があるといえる。問題の領域は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題があるといえる。

・4年生算数を見ると、全国平均を下回り、課題があるといえる。問題の内容は、「大きい数・小数・分数」と「□を使った式」に課題があるといえる。領域「数と計算」に課題があるといえる。

(2) 全国正答率と比較して差が大きい問題

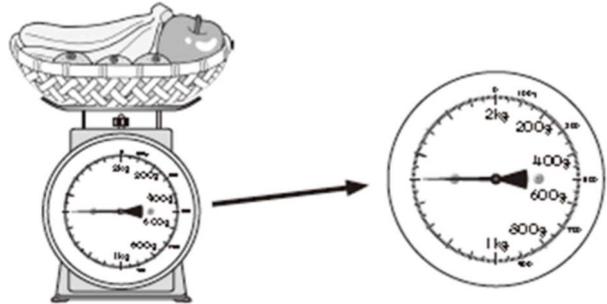
【国語】「言語の特徴や使い方に関する事項」

- 3 (3) ローマ字と、その読み方の組み合わせとして正しいものを、次から1つえらんで、その番号を書きましょう。

- |   |        |   |     |
|---|--------|---|-----|
| 1 | kiyaku | — | きやく |
| 2 | kappa  | — | かっぱ |
| 3 | hooki  | — | ほうき |
| 4 | kadin  | — | かびん |

【算数】「測定」

- 11 (1) 400gのかごに、くだものが入っています。はかりで全体の重さをはかりました。くだものだけの重さをもとめましょう。



- 14 ひろきさんは、 $15 \times 18$  の計算のしかたを次のように考えました。ひろきさんの考え方にならって、 $35 \times 14$  の計算のしかたを考えます。ア、イ、ウの中に数を入れて、文をかんせいさせましょう。

- |   |         |   |         |
|---|---------|---|---------|
| 1 | 100g    | 2 | 1kg100g |
| 3 | 1kg500g | 4 | 1kg900g |

ひろき

15 × 18は、15 × 2 × 9と考えられます。  
 $15 \times 2 \times 9 = 30 \times 9$ で、答えは270になります。

35 × 14は、35 × 2 × 7と考えられます。  
 $35 \times 2 \times 7 = \text{ア} \times \text{イ}$ で、答えはウになります。

3 質問紙調査の結果

(1) 質問紙調査の肯定値

① 「肯定値」とは

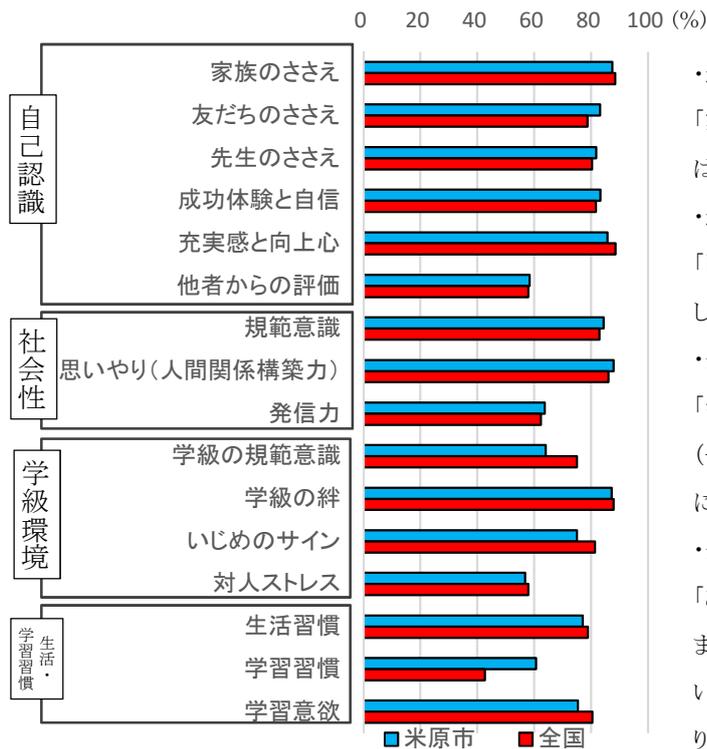
肯定値… 4 択の質問を対象に、各選択肢に次の配点で得点を与え、カテゴリ毎に算出した平均値に 25 を掛けた値。

最も望ましい／良好な選択肢 (強い肯定)	に「配点：4」
次に望ましい／良好な選択肢 (弱い肯定)	に「配点：3」
改善／配慮を要する選択肢 (弱い否定)	に「配点：2」
特に改善／配慮を要する選択肢 (強い否定)	に「配点：1」

② カテゴリ分類

- I 自己認識 ⇒ 『愛されているか』…「家族のささえ」「友だちのささえ」「先生のささえ」  
⇒ 『自己肯定感』…「成功体験と自信」「充実感と向上心」「他者からの評価」
- II 社会性 ⇒ 『ソーシャルスキル』…「規範意識」「思いやり (人間関係構築力)」「発信力」
- III 学級環境 ⇒ 『学級風土』…「学級の規範意識」「学級の絆」  
⇒ 『リスク管理』…「いじめのサイン」「対人ストレス」
- IV 生活・学習習慣 ⇒ 『生活習慣』『学習習慣』『学習意欲』

### ③ 小学校第4学年の肯定値



・最も肯定値が高い質問

「家の人は、あなたにとって大切な人ですか。(家の人は、今いっしょにくらしている人のことです)」94.1

・最も肯定値が低い質問

「じゅぎょう中、クラスの人がさわりだり、おしゃべりをしたりして、勉強に集中できないことが、ありますか。」37.2

・全国と比較して肯定値が高い質問

「学校のじゅぎょうの、予習やふく習をしていますか。」60.7 (+18.0) 「学校生活の中で、クラスみんなが、あなたに注目してくれることがありますか。」58.5(+12.8)

・全国と比較して肯定値が低い質問

「あなたのクラスでは、みんなが先生の言うことを守っていますか。」81.1(-13.2) 「あなたは、先生から期待されているな、友だちからたよりにされているな、と感じることがありますか。」58.2(-11.9)

※「いじめのサイン」「対人ストレス」は、他の項目同様、値の高い方が良好(心配)

「家族のささえ」「思いやり(人間関係構築力)」「充実感と向上心」「学級の絆」の値が8割を超え、良好である。一方、「他者からの評価」「対人ストレス」が7割未満で課題である。全国平均と比較すると「学習習慣」が良好である。一方、全国平均と比較すると「学級の規範意識」の低さが課題である。

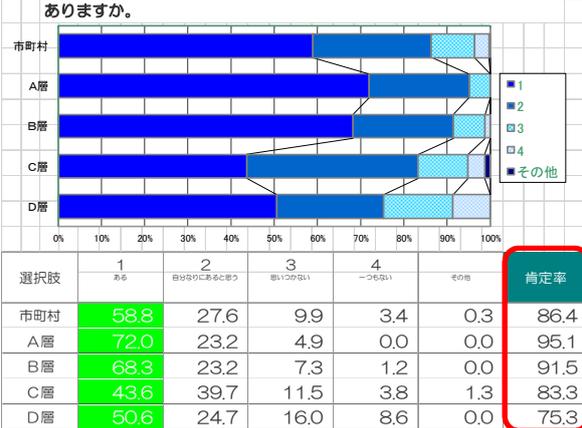
### (2) 学力調査結果とのクロス集計

※児童・生徒を標準学力調査の受検教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。

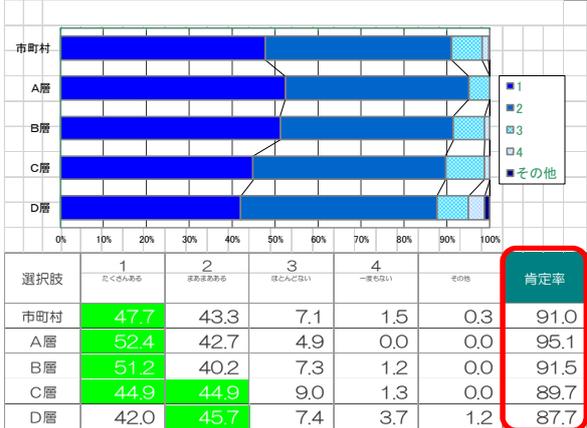
#### ① I 自己認識



2) 勉強やスポーツ、習いごと、しみみなどで、じまんでできる、とくいなことが



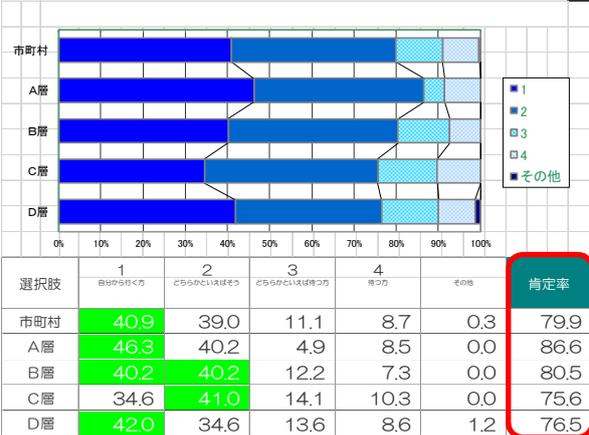
3) 自分なりに、努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。



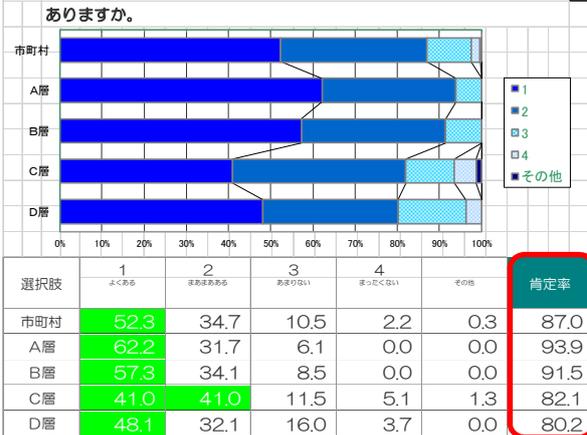
家族、友だちのささえがある児童ほど、学力が高い傾向にある。  
 自慢できることや得意なことがある、自己肯定感の高い児童ほど、学力が高い傾向にある。

② II 社会性

7) 友だちとけんかをしてしまったあと、自分から仲直りに行く方ですか。



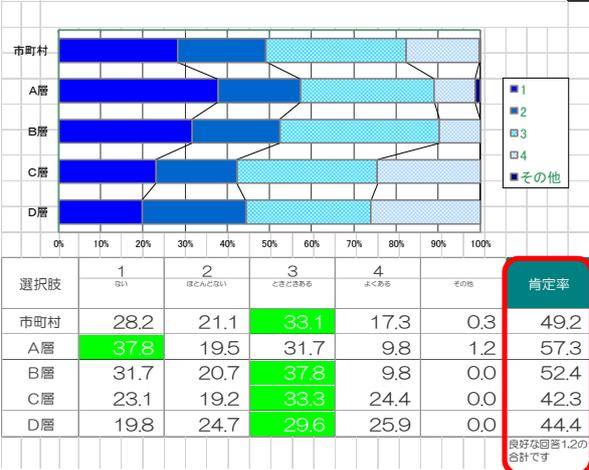
7) 学校のじゆぎょうでは、となり同士やグループで、話し合いをすることが



思いやり（人間関係構築力）のある児童や、対話・話し合いの頻度が多いほど、学力が高い傾向にある。

③ III 学級環境

7) 学校に行きたくないと思うことがありますか。



8) グループをつくる時、一人ぼっちになるかもしれないと不安を感じることは



良好な回答1,2の合計です

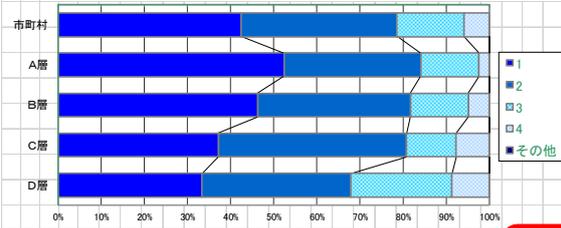
良好な回答1,2の合計です

対人ストレスに対して良好な回答をする児童ほど、学力が高い傾向にある。

④ IV 生活・学習習慣

3) 学校に持っていく物を、前の日に、たしかめていますか。

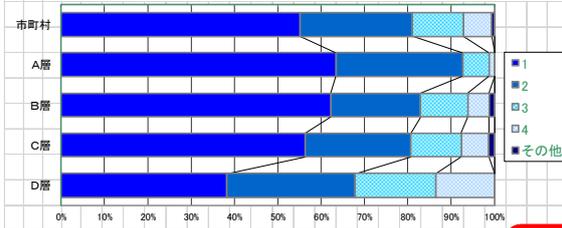
3



選択肢	1 からずかしめる	2 たいてい	3 その日の朝にしかめる	4 ほとんどたしかめない	その他	肯定率
市町村	42.4	36.2	15.5	5.9	0.0	78.6
A層	52.4	31.7	13.4	2.4	0.0	84.1
B層	46.3	35.4	13.4	4.9	0.0	81.7
C層	37.2	43.6	11.5	7.7	0.0	80.8
D層	33.3	34.6	23.5	8.6	0.0	67.9

1) テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。

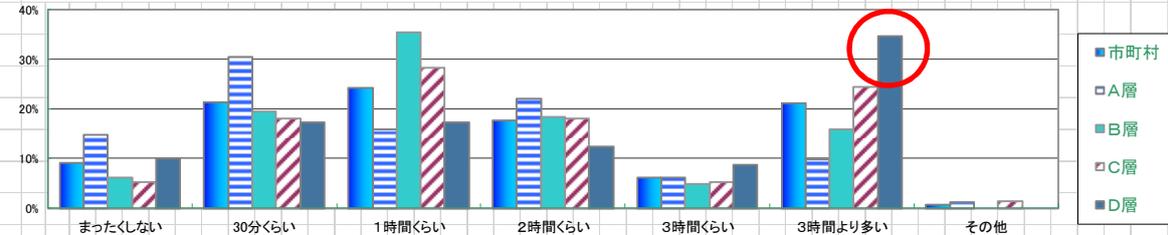
66



選択肢	1 いつもやり直している	2 たいてい	3 あまり	4 そのままとしてしまふ	その他	肯定率
市町村	55.1	26.0	11.8	6.5	0.6	81.1
A層	63.4	29.3	6.1	1.2	0.0	92.7
B層	62.2	20.7	11.0	4.9	1.2	82.9
C層	56.4	24.4	11.5	6.4	1.3	80.8
D層	38.3	29.6	18.5	13.6	0.0	67.9

2) 平日(月～金)は、1日にどれくらいテレビや動画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。

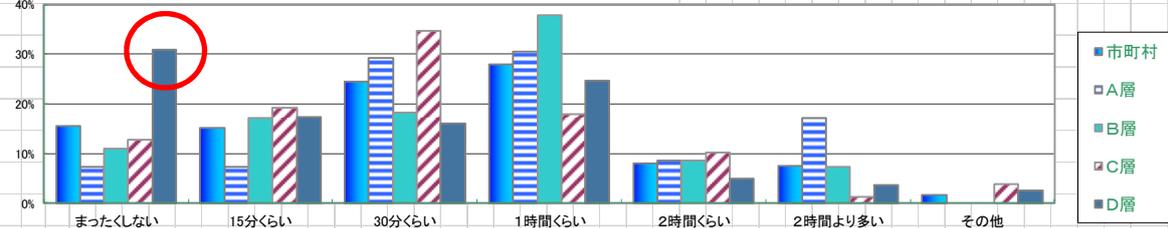
67



選択肢	1 まったくしない	2 30分くらい	3 1時間くらい	4 2時間くらい	5 3時間くらい	6 3時間より多い	その他
市町村	9.0	21.4	24.1	17.6	6.2	21.1	0.6
A層	14.6	30.5	15.9	22.0	6.1	9.8	1.2
B層	6.1	19.5	35.4	18.3	4.9	15.9	0.0
C層	5.1	17.9	28.2	17.9	5.1	24.4	1.3
D層	9.9	17.3	17.3	12.3	8.6	34.6	0.0

1) 学校のじゅぎょうがいに、平日(月～金)は、1日にどれくらい勉強をしますか。(じゅくなどでの勉強時間もふくみます)

68



選択肢	1 まったくしない	2 15分くらい	3 30分くらい	4 1時間くらい	5 2時間くらい	6 2時間より多い	その他
市町村	15.5	15.2	24.5	27.9	8.0	7.4	1.5
A層	7.3	7.3	29.3	30.5	8.5	17.1	0.0
B層	11.0	17.1	18.3	37.8	8.5	7.3	0.0
C層	12.8	19.2	34.6	17.9	10.3	1.3	3.8
D層	30.9	17.3	16.0	24.7	4.9	3.7	2.5

生活習慣や、間違えた問題の復習などの学習習慣が身につけている児童ほど、学力が高い傾向にある。

平日に、テレビや動画、インターネットを使ったり、ゲームをしたりする時間が3時間より多い児童は、学力が特に低い層が突出して多い。

平日に、学校以外で全く勉強しない児童は、学力が特に低い層が突出して多い。

#### 4 考察

今回の学力調査では、国語・算数ともに全国平均を下回り、課題が見られた。その要因として、国語では、特に書くこと（文章を書く問題）に苦手意識が見られることから、改善策として、身近な出来事について、日頃から短い文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせる取り組みが考えられる。算数では、特に「わり算」や「大きな数・小数・分数」をはじめ、基礎的な学力の定着ができていないことから、改善策として、10分間のモジュール学習やドリル教材などを活用した持続的な反復練習や、「長さ・重さ」や「時刻と時間」など、児童に身近な例を積極的に取り上げる取り組みが考えられる。

また、「生活・学習習慣」も要因の一つとして考えられる。クロス集計の結果から、動画やインターネット、ゲームの利用時間等の生活習慣や、間違えた問題の復習などの学習習慣と、平均正答率との間に相関が見られる。このことから生活・学習習慣の充実が学力と結びついていると推察される。

#### 5 学力向上の策定について

今後も学校では、児童理解につとめるとともに、子ども一人一人に合わせた支援を行っていきたい。また、市内各小中学校においても、各校独自の分析や課題改善に向けた学ぶ力向上策を策定し、具体的な取組と検証を進めていく。

一方、家庭での生活・学習習慣のますますの定着を目指して、学校と家庭がしっかりと連携していきたい。当センターで作成した「家庭学習の手引き」や「まいばら学び虎の巻」を各家庭でも活用いただければ幸いである。

さらに、クロス集計で学力との相関が見られた児童の「自己肯定感」を育むことも大切にしていきたい。学校でも家庭でも児童が充実感を得られる経験を増やすとともに、児童一人一人のがんばりを認め、心豊かでたくましい米原っ子を育てていきたい。